

- ◆ 近畿財務局では、地方公共団体へのヒアリング等を通じて、当局管内の地方公共団体からの地方創生に向けた取組に対する相談を受付。
- ◆ このような中、和歌山県みなべ町から紀州備長炭のブランディングや6次産業化等について、当局に相談があったことから、課題解決に向けた取組を検討。
- ◆ 当局では、**日本政策金融公庫の協力を得て、製炭者向けの勉強会を開催(平成28年2月18日)**。
- ◆ 引き続き、地方公共団体からの相談に、当局のネットワーク等を活かした課題解決の一助となる取組を行うなど、各地域の地方創生に向けた取組に積極的な支援等を行っていく。

1. 成果事例の概要等

【課題の把握】

- 近畿財務局では、地方公共団体へのヒアリングや地方創生コンシェルジュを通じて、当局管内の地方公共団体からの地方創生に向けた取組に対する相談を受付。
- このような中、当局が和歌山県みなべ町長にヒアリングを行った際、同町が取り組んでいる紀州備長炭のブランディングや6次産業化等について相談があった。

【企画概要】

- 当局は、同町の取組をサポートするため、同町役場や和歌山県庁及び関係団体にヒアリング。これを踏まえ、当局は、製炭者に販路拡大のメリットや徹底した品質管理によるブランド維持のメリットなどについて知ってもらい、今後とるべき道を**製炭者自身が考える「気づき」となるような勉強会(製炭者向け勉強会)**を企画。
- 同勉強会には、日本政策金融公庫(以下「公庫」)(農林水産事業)の協力を得て、講師を招聘し、**平成28年2月18日に製炭者向け勉強会を開催**(「みなべ町備長炭生産者組合」総会に合わせて実施)。



原木(ウバメガシ)



製炭作業工程

※紀州備長炭とは・・・

ウバメガシやアラカシの木を1,000度以上の高温で焼く白炭は、着火しにくいですが火力が長持ちするのが特徴であり、昔からうなぎの蒲焼きや高級料理の燃料として重宝されてきた。紀州備長炭の起源は、平安時代初期(800年代)の頃と伝えられており、元禄年間(1700年代)に、紀州の炭問屋 備中屋長左衛門が普及させたことから「備長炭」と名付けられたと言われている。(同町HPより加工編集)

2. 意見交換会・講演会の概要

【製炭者向け勉強会】(28年2月18日)

- 参加者：**みなべ町備長炭生産者組合員**(36業者)ほか
- 同勉強会の主な内容
 - ① 公庫が手掛けた**地域活性化事例の紹介**
 - 確立されたブランド力を更に活性化している事例
 - 農業体験・宿泊ができることを売りに交流人口を増やし活性化を図っている事例
 - 工芸体験で近隣や外国人観光客を集めている事例など、同町と同様の環境にある地域のユニークな取組を紹介。
 - ② 公庫(農林水産事業)の**資金メニューの紹介**
 - 造林資金(択伐施業資金)や原木搬出機械購入資金
 - 製造施設を整備するための農林漁業施設資金
 - 炭焼き体験施設等を整備する中山間活性化資金など、個人単位かつ低金利超長期での借入が可能との説明。
- 出席者の声
 - 公庫にこれほど豊富なメニューがあることを全く知らなかった。これから製炭量を増やしていく場合にも便利な融資。話を聴くことができてありがたかった。(組合事務局)
 - 梅農家との付き合いはあったが、今まで備長炭製炭者と付き合うきっかけがなかった。今回のような場を設けていただきありがたい。(公庫)

同勉強会の模様



3. 今後の課題と近畿財務局の対応

《今後の課題》

- 増産とともに品質管理の徹底、後継者の育成が課題。

《今後の近畿財務局の対応》

- 引き続き、地方公共団体からの相談に、当局のネットワーク等を活かした課題解決の一助となる取組を行うなど、各地域の地方創生に向けた取組に積極的な支援等を行っていく。